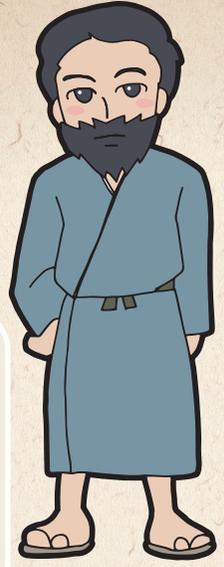


宮崎兄弟とは、今から100年ほど前の明治時代に活躍した宮崎八郎、民蔵、彌蔵、寅蔵（滔天）の4人のことです。彼らが生きた時代は、日本を含め、世界が激しく動いた時代。この時代のなか、兄弟たちはそれぞれの夢や理想のために日本や世界を駆け巡りました。

民蔵

(宮崎家十八男)
1865~1928

土地復権を
生涯の使命とした哲人。



父・長蔵と兄・八郎が早くに亡くなったため、16歳で家を継ぎました。貧しさに苦しむ農民を助けるために、仲間を求めて「土地復権同志会」をつくりました。1912年には同じ考えを持つ孫文がつくった国・中華民国に自分の目標の実現をみて、弟・滔天とともに孫文の革命運動を支援しました。

自由民権に散った
天性の革命児。

八郎

(宮崎家二男)
1851~1877



みんなで国を治める「日本」を目指して活躍。1877年に西南戦争が起ると、仲間たちと熊本協同隊をつくって参加しましたが、1877年4月6日八代萩原堤で戦死（27歳）。自由と平等を愛する兄弟の精神的原点となりました。

滔天

(宮崎家八男)
1871~1922

孫文を助け、
革命に身をささげた人。



兄達の意思を継ぎ、彌蔵とともに、中国革命を目指します。同じ理想を持つ孫文と出会い、革命に対する熱い思いと固い友情を育みました。1901年に滔天が書いた本『三十三年之夢』は、まだ広く知られていなかった孫文の存在を多くの人に伝えるきっかけになりました。その結果、中国同盟会がつくられ、辛亥革命の成功へとつながりました。

理想の国を
中国革命にみた思想家。

彌蔵

(宮崎家七男)
1867~1896



ヨーロッパなどの強い国に負けないように、中国で革命を起こして、理想の国をつくることを目指しました。弟・滔天とともに横浜の中国人街で活動していましたが病気になる、29歳の若さでなくなりました。